

cumre REPORT

クムレレポート 2022



ごあいさつ

社会福祉法人クムレ

理事長 財前 民男



5 抛点・1 基地・ワンチーム

3年間続くコロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻は、世界中に混乱を巻き起こしています。福祉の分野においても、利用者支援に欠かせない活動の制限や、食料・運搬費・関連物資の値上がりに頭を悩ませる日々が続いております。

そのような状況下において、昨年度は倉敷・水島の二つの拠点で、これから必要とされる地域共生社会に相応しい「多機能型重度グループホームおうちだ」と、不登校等で引きこもっている子ども達の居場所を地域の皆様と一緒に創る「わたげ」の開設に向けて法人を挙げて取り組み、4月に両施設をオープンすることが出来ました。

そして本年度、クムレは「5拠点・1基地・ワンチーム」で新たなるスタートを切りました。

この10年間、社会福祉法人「光明会」から「クムレ」への名称変更を経て、法人一体となって取り組んできた法人の近代化・社会化の取り組みを一層前進させ、「どんなに障がいが重くても自分らしく暮らし続けることが出来、すべての子どもが健やかに育まれる居心地の良い地域」を目指して組織を再編しました。

従来の倉敷・水島の地域拠点を、5つのテーマ毎の拠点とし、それらを支え伴走する本部機能を地域共生推進基地と位置付け、これから起こるであろう予測困難な社会の変容にも対応出来得る組織経営体制を整備してまいります。

令和2年12月4日、東京帝国ホテルで開催された日本生産性本部主催の経営デザイン認証式の席上、クムレを代表して謝辞を述べる中で、「3年後には、ワンチームとなって、経営品質賞にチャレンジする」ことをコミットメントしました。

これを受け、本年度7月から、民間企業との競争の中でも生き残り成長していくため、理念を体現出来る法人を目指し、日本経営品質賞チャレンジプロジェクトをスタートしております。

本年度も皆様方のご支援・ご協力よろしくお願ひいたします。

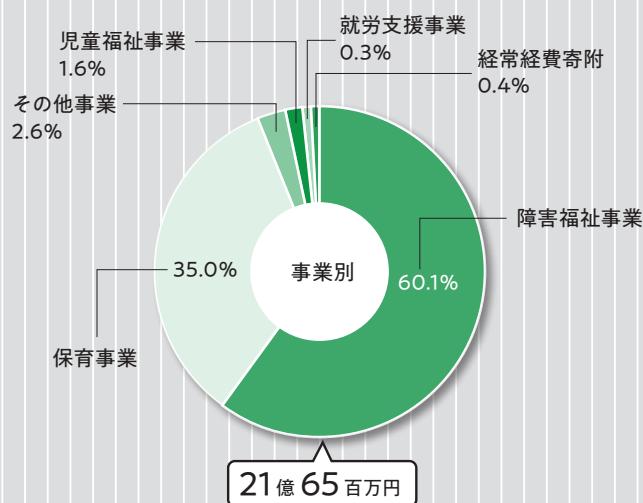
2021年度 事業報告

- ▷ サービス活動収益（売上高）21億円を突破、昨年度に引き続き保育事業や児童期の支援が好調であり、処遇改善加算等も増加した。
- ▷ 重度多機能グループホームおうちだの建設で支出・負債の割合が膨らむ
- ▷ 新型コロナウイルス感染症などの感染症への対応や自然災害へ対応力強化

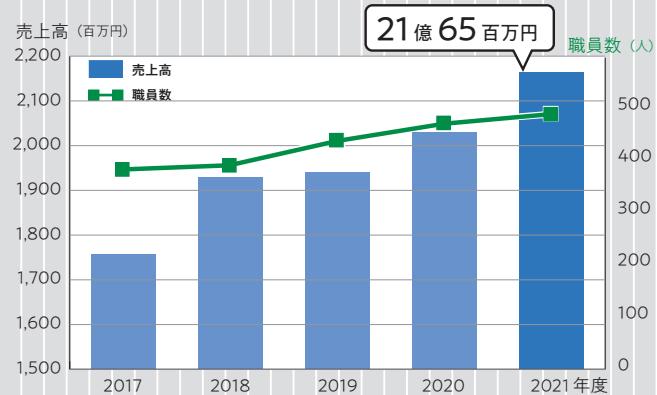
内閣府の令和4年3月の月例経済報告では「景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる」とあり、当法人の決算では、21億6千5百万円となり、昨年度に引き続き増収となりました。コロナ感染症の状況は、昨年度に引き続き厳しい状況が続いているが、職員の連携のもと、感染症対策や感染後の対応にも尽力し、経営状況に大きな影響を与えることはありませんでした。

また新しい事業モデル構築に取り組み、多機能型グループホーム「おうちだ」を、法人、家族、地域住民と一緒に作り上げ、ウッドショックや資材等の不足等の影響もありましたが、令和4年4月に無事オープンすることができました。

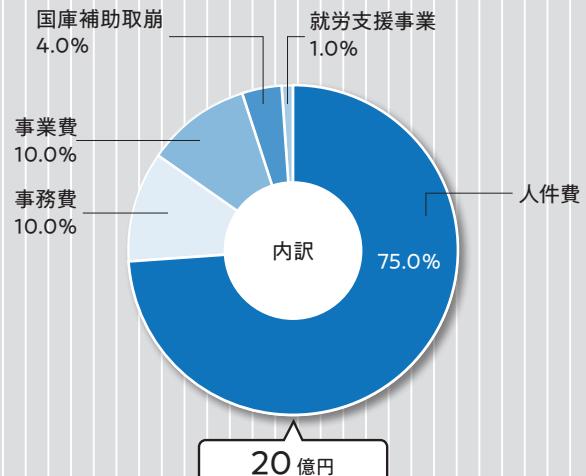
法人収入



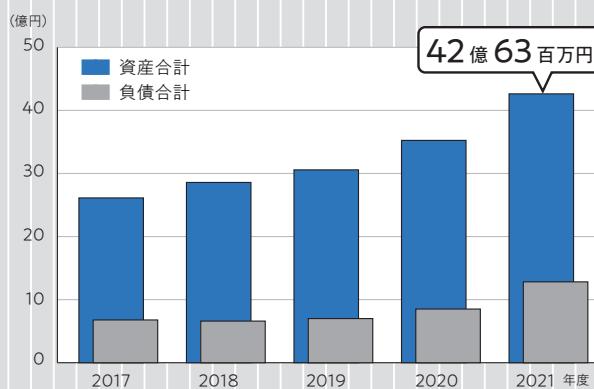
事業活動収入と職員数



法人支出



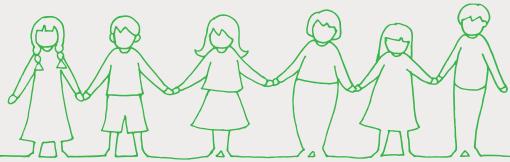
資産合計／負債合計



独自に実施する社会貢献活動

事業	金額 (円)
子育て支援・発達支援教室	396,199
障がい児・者 SNS 相談事業	39,268
避難所としての環境整備	1,377,314
移動図書館、移動パントリー	300,505
子ども食堂（ひだまりカフェ）	70,276
高齢者健康促進（オレンジカフェ）	97,877
引きこもり支援	94,141
地域共生社会を推進するための活動費	1,197,441

クムレでは制度外の地域に向けた取り組みを、様々に展開しています。
上記はその一部です。



令和3年度

倉敷拠点

倉 敷 拠 点

居心地のいい地域づくり（人と OUR）

CUMRE ONE TEAM に向けて

2020年度経営品質ランクアップ認証に挑戦し、私たちのありたい姿を決めて、2021年度は、倉敷拠点地域共生型モデル「多機能型重度グループホームおうちだ」と地域の人たちとともに暮らしをデザインする基地「栗の家」「上東商店」「やまでっこ」の4つの実践に取り組んできました。法人の大目にしたい支援観「自立（自律）・尊厳・ハビリテーション」を実践すると、ご利用児者を障害や特性・病気などの視点だけではなく、生活者として地域で暮らしていく視点が大切だと気づかれます。私たちは「暮らす・働く・子育ち・つなぐ」といった生活カテゴリーの中で職員や地域の人と一緒に考え、老若男女問わず、障がいがあるなしに関わらず楽しくワクワクする参加の場・働く場・ほっとする場・お互い助け合いの場、いろんな場をみんなで実践していきました。

おうちだ（岡山市）

地域の誰もが集う、安心できる、活躍できる、その人の強みが活かされる居場所が完成。おうちだ街作り隊結成。3つのおもい（思い・想い・重い）をクラウドファンディングで届けた。



ひろば栗の家

災害に強い地域をつくるため、話しあい支えあいの体制で法人内BCP（洪水）に取り組んだ。感染対策を施しながら、どんぐりひろば（発達相談の場）・マロンクラブ（学齢期発達相談の場）・オレンジカフェ・極楽体操（介護予防、体操の場）を実施した。



居心地の良い地域を地域の人と楽しむ

事業報告



コンセプト

人をつなげていく・地域づくり)

ら
い
ふ
樂♥FE

基地を作る職員集団

CumCollege (クムカレ) 1期生・2期生誕生!

ワイがやで「こんなのあつたらいいな」を考えてみるのが CumCollege (クムカレ) です。所属や役職を超えて純粋に地域つくりに興味がある職員、仲間が欲しい職員が集まり自分の視野を広げたい職員が真剣に夢を形にしています。今年度も CumCollege (クムカレ) で描いた夢を、実践報告会で発表し、賞を頂きました。



やまでっこ・ひだまりカフェ

地域の方々と一緒に作った子ども食堂「やまでっこ・ひだまりカフェ」で多世代の交流が始まった。

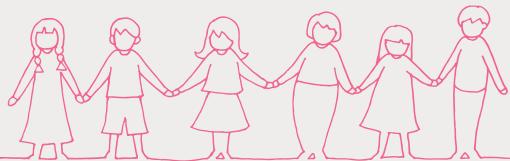


上東商店

子どもたちが「まちのじどう家ん」を利用し、近所の人とほっとする場で過ごしている。ローリングストック上東バル開催に向けて地域で防災について話しあい支えあいの活動に参加した。



みながら作る職員集団ができている。



令和3年度

水島拠点

水 島 拠 点

笑顔で子育てできる=子どもから大人まで Our

わたげ・第二保育園



家族支援ネットワーク・
ひとり親交流会



子どもの居場所

ほっとステーション
金曜スタディ
子ども食堂
ひだまりカフェ



休眠預金の活用



子育て

◎子どもが心身ともに健やかに成長できるよう「諸問題を抱えた家族への支援と自立を支えるネットワークづくりを行い様々な取り組みを行った

子ども宅食支援お届け隊フードパンtries



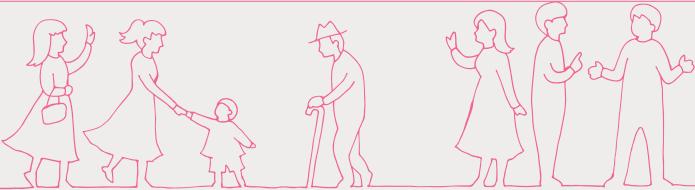
子ども何でも

地域

◎わたげができ、新たな
◎地域住民と一緒に行う



事業報告



コンセプト

すべての人が仲間であり続ける地域づくり
Smile

重層的支援 多機能化 地域共生

ひろばにじいろ

子育ち

- ◎障害の有るなしに関わらず、子どもの年齢発達にふさわしい子育ち支援
- ◎多職種・専門職によるチームアプローチ支援がスタートし、ケアコラボを活用した保護者との協働（医療的ケア児）がスタートした



多職種・専門職によるチームアプローチ支援がスタートし、ケアコラボを活用した保護者との協働（医療的ケア児）がスタートした

医療的ケア



ICT ケアコラボによる情報共有



相談センター

育ち

地域での地域課題を共有取り組みがスタートした

地区社協コミュニティ協議会との協働

- ◎災害ネットワーク
- ◎福祉計画立案に参画した



2021年度 決算報告書

(単位:円)

貸借対照表

資産の部	
科目	決算額
流動資産	1,214,557,853
固定資産	3,048,888,171
(基本財産)	2,390,426,432
(その他固定資産)	658,461,739
資産の部合計	4,263,446,024

独立監査人の監査報告 令和4年5月17日

監事の監査報告 令和4年5月18日

【経営指標】	参考指標①	実績	備考
借入金比率	48.2%	33.2%	売上高と借入金残高の比率
債務償還年数	4.9年	1.9年	借入を返済するまでに必要となる年数

負債の部	
科目	決算額
流動負債	430,496,260
固定負債	852,494,344
負債の部合計	1,282,990,604
基本金	166,111,041
国庫補助積立金	669,961,428
その他の積立金	243,500,000
次期繰越活動増減差額	1,900,882,951
(うち当期活動増減差額)	177,545,466
純資産の部合計	2,980,455,420
負債及び純資産の部合計	4,263,446,024

資金収支計算書及び事業活動計算書

資金収支計算書	
勘定科目	決算額
事業活動による収支	
事業活動収入計 (1)	2,194,731,682
事業活動支出計 (2)	1,918,877,492
(人件費支出) 〈人件費率 69.2%〉 ※	1,478,084,933
(その他支出)	440,792,559
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)	275,854,190
施設整備等による収支	
施設整備等収入計 (4)	463,786,908
施設整備等支出計 (5)	645,395,129
施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)	△ 181,608,221
その他の活動による収支	
その他の活動収入計 (7)	82,248,008
その他の活動支出計 (8)	153,595,324
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	△ 71,347,316
当期資金収支差額合計 (10) = (3) + (6) + (9)	22,898,653
前期末支払資金残高 (11)	838,161,472
当期末支払資金残高 (10) + (11)	861,060,125

※人件費支出／事業活動収入計による比率

【経営指標】	参考指標②	保育事業	障害福祉(児)	障害福祉(者)
人件費率	67.3%	64.2%	70.8%	63.7%
経費率	23.9%	17.1%	10.8%	37.9%

※参考指標①:「TKC社会福祉法人経営指標(S-BAST)令和2年度版

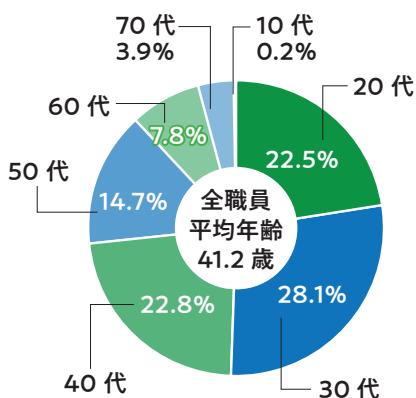
参考指標②:「2019年度(令和元年度)社会福祉法人の経営状況について」(独立行政法人 福祉医療機構)

〈自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日〉

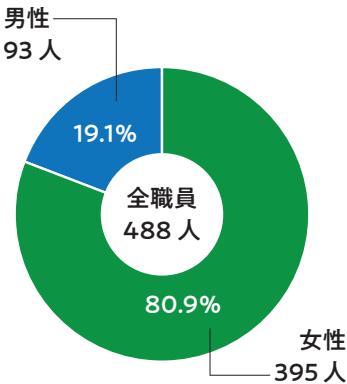
事業活動収支計算書	
勘定科目	決算額
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計 (1)	2,165,189,217
サービス活動費用計 (2)	2,000,007,758
サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	165,181,459
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計 (4)	29,542,465
サービス活動外費用計 (5)	22,370,736
サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	7,171,729
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	172,353,188
特別増減の部	
特別収益計 (8)	174,617,188
特別費用計 (9)	169,424,910
特別増減差額 (10) = (8) - (9)	5,192,278
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	177,545,466
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額 (12)	1,777,837,485
当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)	1,955,382,951
基本金取崩額 (14)	0
その他積立金取崩額 (15)	76,000,000
その他積立金積立額 (16)	130,500,000
次期繰越活動増減差額	
(17) = (13) + (14) + (15) - (16)	1,900,882,951

職員について

年齢



男女比



職員の国家資格所有者

資格種別	保有人数
社会福祉士	48
精神保健福祉士	15
介護福祉士	54
看護師・准看護師	34
公認心理師	2
管理栄養士	17
言語聴覚士	4
作業療法士	5
理学療法士	1
保育士	209
幼稚園教諭	137

2022年3月31日現在

過去3年間の新卒採用者数

採用者	2021年	20名
採用者	2020年	13名
採用者	2019年	15名
合計		

過去3年間の1年未満の新卒離職者数

離職者	2021年	1名
離職者	2020年	1名
離職者	2019年	1名
合計		

月平均所定外労働時間（前年度実績）



前年度の育児休業取得対象者数（男女別）

対象者	女性	男性	合計
	15名	2名	17名

2021年度

平均有給休暇取得日数（前年度実績）



前年度の育児休業取得者数（男女別）

取得者	女性	男性	合計
	15名	0名	15名

2021年度

役員及び管理的地位にある者に占める女性の割合



産休・育休を取りやすい環境で、3人目、4人目を出産される職員も! 小学3年生までは時短勤務を可能にしたりと、子育て中のママさん職員も働きやすい環境です。

令和3年度 実践発表会について

コロナ禍の終息が見えない中、令和3年度も前年度に引き続きオンラインを活用し、クムレの実践発表会を開催しました。

今回の発表は今までの報告会とは一味違い、水島・倉敷の拠点でそれぞれ創意工夫をした発表方法を取り入れ、映像・音声の活用や、次世代を担う職員“クムレ HERO'S”からのメッセージ発表もありました。また、クムレの職員だけでなく地域の学生も参加されました。

理事長賞には倉敷拠点の4つの基地の取組みが、審査員賞には水島拠点の子育ちチームの取組みと、職員有志のクムレカレッジの取組みが選ばれ、学生さんの発表には特別賞が授与されました。

今後も、地域共生社会の実現に向けて地域と共に歩んでいきたいと思います。



データで見る相談件数

ご本人やご家族、地域の「気になる」や「困った」をキャッチして支援に繋ぐ、安心して生活し続けられるネットワーク作りを行う、そんな相談をデータでご紹介します！

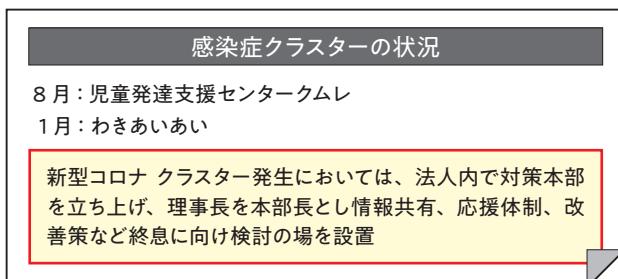
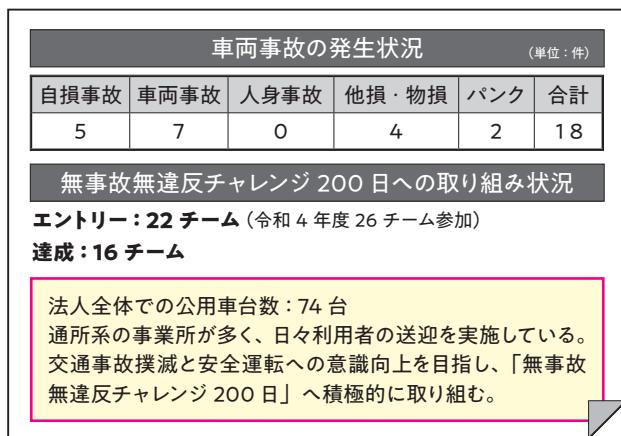
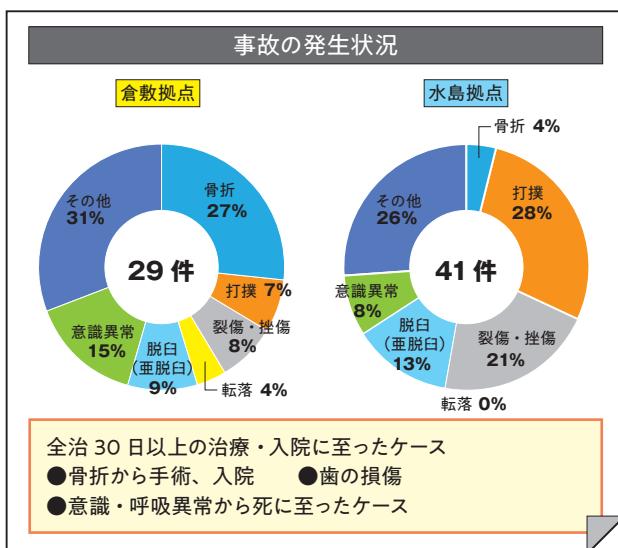
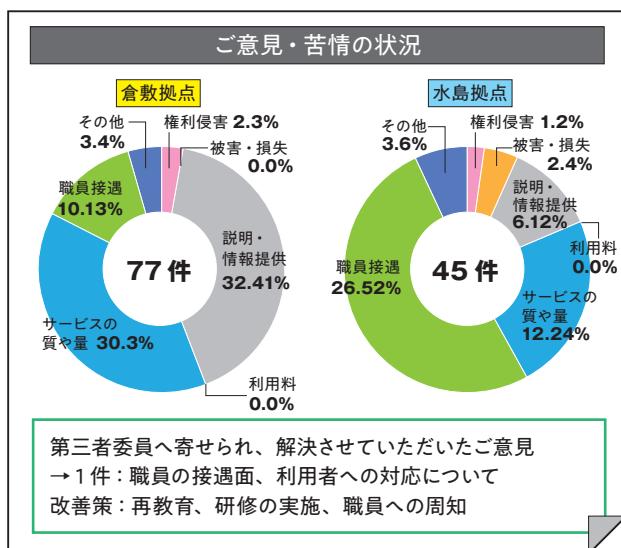
利用契約によらない相談件数

子ども何でも相談 総合ダイヤル 37 件	児童家庭支援センター クムレ 2,815 件	DV 被害者等相談・ 自立支援充実事業 86 件	小さくら地域 子育て支援センター 556 件
児童発達支援センター クムレ基本相談 30 件	児童発達支援事業所きらり (中庄・倉敷・児島・水島・玉島) 5 件	特定指定相談支援事業所・ 特定障がい指定相談事業所クムレにて基本相談 15 件	
発達障がい者支援センターへの相談件数 1,912 件			基本相談(倉敷学園) 電話相談 25 件 来所相談 32 件

● 0歳～18歳の発達についての相談を受けています。相談内容に応じて、専門職(社会福祉士・保育士・言語聴覚士・作業療法士等)が担当します。

リスクマネジメント委員会

当法人では、風通しの良い組織(風土)作りと圧倒的な安心・安全を実現するためにリスクマネジメント委員会を設置しています。リスクマネジメント委員会では、毎月各事業所の事故報告書(ヒヤリはっと・意見・要望・苦情含む)をもとに本人要因、職員要因、環境要因などから原因分析と防止策の検討、昨年度の同時期の傾向と比較して予防策の提案を職員に周知しています。



2022年度 事業計画

1 理事長方針

- i. 理念を実現できる組織体制に向けた法人のワンチーム化を推進する
- ii. 地域とともに地域共生型モデルや防災体制づくりを推進する
- iii. クムレの職員が理念の実現に向けた成長の機会を共生型モデルで推進する

2 2025年に向けたクムレのありたい姿

「ともに育ち ともに生きる」理念の実現へ向け、「加わろう 地域のつながり 支え合い」の合言葉のもとに切れ目のない支援体制の構築に力を注いできました。一昨年から続く新型コロナウィルス感染症の影響からか、全国の令和3年度の出生数報告84万人に対して、令和4年度は80万人との予測もあり、少子高齢化がさらに加速している状況から、誰もがともに支えあう地域共生社会モデルを、地域との協働と実践の積み重ねを通じて実現していく必要があります。

私たちの法人理念「ともに育ち ともに生きる」を実現する上で、令和4年春、岡山市に多機能型重度グループホーム「おうちだ」を開設し、水島の連島地区での「わたげ」の取り組みなど、新たな事業に取り組み始めました。従来型の利用者を自己完結的に支援することから転換し、地域共生型社会の実現に向けた、地域と一緒により良く生きることができる共生型事業の新たなモデルを構築する取り組みを開始し、成長サイクルを継続していきます。また今後の人口減少社会の変化に対応していくために、地域の中で福祉にかかわる人財を育てていくことも必要です。多様性・包括性を持った人財の循環システムを構築し、今後の人口減少社会への対応を進めます。

2025年度は、組織の再設計と改革を進めワンチームとして成長していく体制に転換し、目指す理念の実現の具体化に向けたモデル事業を通じて職員の理念への理解や共感を深め主体的に地域づくりに取り組める人財への成長を促します。組織機能としては、防災体制の構築を、ICTの活用を通じてサポートし組織機能を再設計し、一体的な実行組織へ成長していきます。

事業を継続し成長のPDCAサイクルを構築していく為に、法人予算の目標収支差を5%とし、その中から共生型事業の費用や施設整備積立金等をねん出し、共生型事業に向けての人財・組織構築に向けて人件費70%未満を目標値として、ありたい姿の実現の為に各事業所の事業計画にて実現できるよう法人職員と一体的な取り組みを行っていきます。



2022年

クムレ⑤拠



CUMRE ONE

ありたい姿

どんなに
ることが
れる居心

老松地区

クロス・かくしん拠点

誰もが必要とされ、活躍できる地域へ、多機能化・複合化



水島・連島地区

わたげ・第二保育園拠点

すべての子どもが家庭で健やかに育つ親子一体型支援
安心して暮らせる地域づくり

基地（地域共

私たちの実践は、新たな生め終わりがありません。今拠点の働く・防災を推進し通テーマがあり拠点同士で

水島地区

にじいろ拠点

地域で子どもが輝く子育ちひろば



働く

点 + 1 基地

TEAMに向けて

障害が重くても自分らしく暮らし続けでき、すべての子どもが健やかに育ま地の良い地域。

の実現

生推進基地)

活課題にチャレンジするた
年度基地は、それぞれの
ていきます。拠点間でも共
実践を高めていきます。

・防災



栗坂・岡山市北区撫川地区

おうちだ・栗の家拠点

栗の家、おうちだにバリアはない。
安心に安全に住み慣れた場所で住
み続けたい魅力ある場所！

上東・総社山手地区

上東商店・やまでっこ拠点

みんなでつくる、心が重なる居場所



32 名	子ども食堂 (ひだまりカフェ)
166 名	体験学習
※ 17名 37回のボランティアや関係者のご協力を得て実施 社会経験が少ない児童や、他者と関係を築くことが苦手な児童を対象に、子ども食堂(ひだまりカフェ)を月に1回開催。 家庭環境や不登校等により体験が乏しい児童等を対象に体験学習を実施。「野菜栽培」「収穫した野菜を活用したクッキング」「柿・みかん狩り」「石鹼・バスボム作り」「正月遊び」「趣味の会」「作品展」「学習会」など。	
80組 124名 にじいろカフェ (感染対策をしながら7月に開催) 親子や、近隣の方、日ごろからお世話になっている方々など、世代を超えて地域の方が集う場として開催。いつも出店してくださるなじみのお店に 加え、クレープ屋さんやフルーツサンド屋さんなど、新たなお店も出店。	

延べ人数 386名	新規登録 52名	活動人数 132名
いきいきボランティア(水島)		

延べ 210名	180名
上東商店	子ども食堂 『やまでっこ ひだまりカフェ』

41名	28名
さくらんぼの会 きょうだいじの会。 障がいのあるお子さんの きょうだいが集まる場。	ひまわりの会 卒園児の会。倉敷学園を卒園されたお子さんが対象です。倉敷学園を卒園した後も卒園児さんと保護者の方が集まる場所を準備しています。色々な活動や遊びの機会を準備しています。

延べ 97名	10名
沖ベース 地域に住む子どもたちを地域で見守り、支えたい気持ちから平日と土曜日の夕方16時～17時事業所を開放して、カード遊び・YouTube・ボードゲーム・宿題等、子どもたちに自由に過ごしてもらう居場所です。きらり倉敷の事業所内のスペースを活用しています。(倉敷市沖194-1)	女子会 (年4回の計画のうち、コロナ禍により1回のみの開催) 地域の方や保護者の方との交流の場。茶話会を中心としたおしゃべりでお互いを知る機会になっています。

データで見る クムレの 利用者について

4回 163世帯 食材や日用品の配付等

※ 19名のボランティアや
関係者の協力を得て実施
助成:NPO フローレンス
「子ども食応援団」
厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」
農林水産省「政府備蓄米交付」

105名 極楽体操

ストレッチのようなゆったりとした体操で身体をほぐします。様々な年代の方が参加しています。

延べ 37名参加 発達ボランティア養成講座

1クール3回+1回(フォローアップ)の4回開催

目的:
発達障がいに関し、正しい知識と理解を持つボランティアを養成し、支援に関わるあらゆる場面で力を貸していくたくらみ相互に互助・共存する地域づくりを目指す。

方法:
・支援者・当事者・実際のボランティアからの講話。
・支援機関(ゆめばる・公益活動推進センター)によるボランティアについての講話。
・意識調査(障害児・者へのイメージ)

年3回 凸凹お便り発行

目的:
当事者目線を踏まえた発達障がい理解の啓発を目的に発行

方法:
当事者を含む編集会議を開催し、イラスト作画・校正・エピソード提供・配布等、当事者と協働で発行。

84名 マロンくらぶ

小学校で囮りごとを抱えているお子さんに
対し『ソーシャルスキルトレーニング(SSLT)』
を用いて、協調性や社会性、バーソナル
スペースの取り方を学ぶ場です。福祉サー
ビスを利用していない倉敷市内の小学校に
通う1年生～3年生(8名程度)を対象と
しています。

26組 55名(年6回) パクパクランチ

保育園の給食を試食しながら、栄養士さん
や歯科衛生士さんに相談できる講座。



各会 14名(毎月1回) 地域公益活動推進ミーティング

旧倉敷拠点の事業所から1名ずつ参加していただき、お互いの公益活動の情報共有をしたり実際に地域を歩くフィールドワークを行ったり、「その人らしく地域で暮らす」ために必要なことをみんなで考
えるミーティングです。

地域づくりに参加しませんか？

社会福祉法人クムレでは、地域共生型モデルとして令和4年4月にオープンする多機能型重度グループホームをはじめ、生活困窮者支援・居住支援や、既存の制度に当たはまらない相談者の困りごとなど、地域課題の解決にも取り組み、地域を元気にする様々な事業を展開しています。

障がいの有無に関わらず、地域に暮らす人たちが、その人らしく元気に笑顔で生活できる地域づくりを目指しています。ボランティアや協賛金など、ご自分に合った方法で私たちと一緒に地域づくりをしませんか？

後援会

クムレの後援会は、クムレの理念にご賛同される多くの方々で運営されています。「ともに育ちともに生きる」社会の実現へ向けて、人々から信頼され、地域に必要とされる組織となるよう励んでいます。新たな福祉課題に取り組む支援活動にご理解をいただき、多くの方のご入会を心よりお待ちしております。

目的

この会は、社会福祉法人クムレが基本理念である『「ともに育ちともに生きる」に基づき、基本方針を守り地域づくりに貢献する。時代の変遷にともなう地域の福祉ニーズに対して積極的に開拓者として取り組む。誰でも、いつでも安心して利用できる福祉サービスの提供とその質の向上を目指す。』を実践するための支援を行うことを目的としています。

事業及び活動

この会は、目的達成のため次の事業及び活動を行うものとします。

- (1) 保育・障害各事業所の事業活動の充実に関する支援
- (2) 地域福祉の向上に関する支援
- (3) 先駆的な施設・設備の整備の充実に関する支援
- (4) 広報活動の支援
- (5) 地域公益活動の支援
- (6) その他本会の目的を達成するために必要と認める事業



年会費

一般会員（個人）年会費 1,000円

一般会員（法人）年会費 10,000円

賛助会員（法人）年会費 20,000円



クムレの事業所内で、子どもたちや地域の方と関わってくださったり、施設の清掃や環境整備などをしてくれるボランティアを募集中です！特技や好きなことを生かしながら、地域とのふれあいの中でいきいき過ごしませんか？

年齢を問わず、クムレの事業所内でボランティア活動をしてくださった方に、1時間で100ポイント（1日上限200ポイント）がたまります。たまたまポイントをクムレ商品（焼菓子・野菜・洗車チケット・雑貨等）と交換できる「クムレいきいきポイント」制度があります。

クムレ後援会に入会希望の方
または、クムレいきいきボランティアに
ご登録希望の方は
右記までお問合せください。

社会福祉法人クムレ事務局内

〒701-0113 倉敷市栗坂8

T E L : 086-464-0007

E-mail : info@cumre.or.jp



法人沿革

1955年 4月	小さくら保育園 開園
1956年 3月	社会福祉法人光明会設立
1974年 10月	小さくら夜間保育園 開園
1975年 4月	小さくら保育園移転 小さくら乳児保育園 開園 （現在地の同一敷地内に 4 施設移転）
	小さくら園（心身障がい児通園事業）開園
	小さくら夜間保育園移転
1978年 4月	倉敷学園 開園
1981年 10月	小さくら夜間保育園 厚生省認可第一号
1990年 10月	小さくら地域保育センター 開設（現 小さくら地域子育て支援センター）
1993年 4月	あしたば 開設（現 障がい者支援施設あしたば）
2000年 10月	知的障がい者グループホーム 上東ホーム 開設（現 共同生活援助 クムレ上東）
2001年 4月	倉敷地域生活支援センター 開設（現 倉敷地域生活支援センター）
2004年 4月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり倉敷 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり倉敷)
2004年 8月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり児島 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり児島)
2004年 8月	ケアホーム 上東さくらホーム 開設（現 共同生活援助 クムレ上東さくら）
2005年 4月	ケアホーム 上東かえでホーム 開設（現 共同生活援助 クムレ上東かえで）
2006年 4月	指定管理者制度により 倉敷市鶴心寮 を受託
2007年 4月	生活介護事業所コトノハ 開設
2007年 10月	倉敷発達障がい者支援センター 開設
2008年 1月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり玉島 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり玉島)
2008年 4月	就労継続支援B型デイセンターあしたば 開設（現 就労継続支援 B型クラシス）
2009年 3月	知的障がい児通園施設 倉敷学園 移転（現 児童発達支援センター 倉敷学園）
2009年 4月	児童発達支援事業所 きらり中庄 開設
2010年 4月	社会福祉法人クムレに法人名変更 児童家庭支援センター クムレ 開設 居宅介護事業所 なないろ 開設
2010年 9月	児童発達支援事業所 きらり水島 開設
2011年 11月	居宅介護支援事業所クムレ 開設
2012年 4月	訪問介護事業所 なないろ 開設 クムレとて 開設
2012年 6月	通所介護事業所 クムレ 開設
2012年 12月	居宅介護支援事業所 クムレ庄新町 開設
2013年 4月	共同生活援助・介護事業所クムレ 栗坂 開設（現 共同生活援助事業所 クムレ 栗坂）
2013年 6月	児童発達支援センター クムレ 開設
2013年 11月	就労継続支援B型 やさい畑 クムレ 開設
2015年 4月	小さくら保育園 幼保連携型認定こども園に移行 ひろばにじいろ 開設
2015年 12月	ひろば栗の家（おうち） 開設
2016年 4月	小さくら小規模保育園 開設
2017年 1月	放課後等デイサービスなないろ 開設
2017年 3月	通所介護支援事業所クムレ 廃止 居宅介護支援事業所クムレ クムレ庄新町 廃止
2017年 4月	生活介護事業所 わきあいあい 開設 児童発達支援事業所 きらり児島 移転 放課後等デイサービス コトノハ（旧放課後等デイサービスなないろ）に名称変更
2017年 6月	居宅介護事業所 なないろ 移転
2018年 4月	DV 被害者等相談・自立支援充実事業 受託
2018年 7月	住居確保要配慮者居住支援法人 指定
2019年 2月	児童発達支援センター 倉敷学園 相談事業所 開設
2019年 8月	企業主導型保育所 くりのわうち保育園 開園
2020年 4月	小さくら第二保育園（旧小さくら夜間保育園）に名称変更・移転（連島町鶴新田）
2020年 11月	小さくら乳児保育園 建替
2021年 4月	さくらんぼ 小規模保育園 開園
2022年 4月	わたげ 開設 多機能型重度グループホーム おうちだ 開設

※事業所名は現在の名称



法人 HP



facebook



Instagram



クムレレポート

発行日 2022年8月25日
発行人 財前民男

社会福祉法人クムレ
〒701-0113 岡山県倉敷市栗坂8
TEL.086-464-0007 / FAX.086-464-0072

HP <https://cumre.or.jp>